

## 2014年のハマフエフキ採卵

狩俣洋文・上田美加代

### 1. 目的

ハマフエフキの養殖用及び放流用種苗の生産に必要な受精卵を得る。

### 2. 材料と方法

2014年1月21日に12尾の親魚を海面生簀から陸揚げして、屋内の50kL円形コンクリート水槽1面に收容した。2014年6月5日に、屋外30kL円形コンクリート水槽1面に移槽した。親魚は、2006～2007年に購入した天然魚で、雌雄比は不明であった。陸上水槽での飼育は2014年8月23日まで行い、その後は海面生簀に戻した。

採卵期間中の給餌は、スルメイカ、ムロアジ及び配合飼料((株)ヒガシマル:サンゴEP12)を、週3回程度(原則として月・水・金曜日)与えた。

採卵期間中は、銅イオン発生装置(和光技研(株))を用いて、適宜、飼育水中の銅イオン濃度が0～50 $\mu$ g/mLの範囲になるように調整した。産卵を促す目的で、ボイラーで飼育水を22.0 $^{\circ}$ Cに適宜加温した。

採卵方法は、50kL水槽の水面直下に設置したサイ

ホンを用いて、採卵槽に設置した採卵網(網地の目合い0.72mm、大きさ約60cm×約70cm×約80cm)で濾して採取した。サイホンには内径38mmのホースに塩化ビニールパイプを取り付けたものを4本用いた。

採卵網に収集した卵は軽く水切りをし、湿重量を測定した。種苗生産に用いる予定の卵は、紫外線照射海水を満たした1kLアルテミア孵化水槽に收容し、ゆっくりと攪拌して10分程度静置させることで浮上卵を沈下卵を分離した。卵重量は重量法で求めた。

### 3. 結果及び考察

陸上水槽での飼育期間中の水温は、19.7から29.2 $^{\circ}$ Cの範囲で推移し、平均水温は、24.0 $^{\circ}$ Cであった(図1)。

産卵は、飼育水温を22 $^{\circ}$ Cに加温した後の3月1日から始まり、8月21日までみられた(図1)。種苗生産に用いた総浮上卵数は9,930万粒で、総ふ化幼生数は4,739万尾、種苗生産回次ごとのふ化率は、29.9～86.8%の範囲であった。

